

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	① Semester制の導入に向けた諸課題の整備と調整を行う。 ② 生徒の主体的な学習を促す授業の研究を行う。	① 生徒一人ひとりのニーズや興味・関心に応じた学習が可能となるよう、履修指導を充実させる。 ② 生徒が主体的に学習に取り組むための学習支援について研究を行う。	① 受講を希望する生徒に対して、卒業を見通して必要な指導を確実に行うことができたか。 ② レポートの添削指導やスクーリングなどの機会を通して行える学習支援について、研究成果を教員間で共有できたか。	① 新入生、在校生、転編入生のそれぞれに対して、これまでの単位取得状況を踏まえながら、適切に履修指導を行うことができた。 ② 研究協議会を2回行い、生徒の主体的な学習を促すスクーリングやレポートについて協議を行った。 ・日曜スクーリングの研究授業を実施し、生徒が積極的に参加できる手立てについて考察した。 ・レポートについて、生徒にとって取り組みやすく、主体的に学習を進めることができるような体裁や、生徒の学習意欲を高める添削指導の方法について、協議を行った。	① 登録した科目の履修・修得に至らない生徒が少なからずいる状況があり、半期ごとの単位認定の制度を生かして、科目の履修・修得につなげていきたい。 ② 日曜スクーリングのあり方について、協議を続けていく。レポートについて、修得率の向上のために、より取り組みやすいレポートの作成や添削についての協議を重ねていく。	① 受講した科目の単位を修得させるため、何か手立てが必要なのではないか。 ① 一人ひとりの生徒に対する履修指導を適切に行うことができた。通信制における学習の特性を理解させた上で、科目の履修・修得につなげさせることが課題である。 ② 生徒の主体的な学習を促すスクーリングやレポートについて、各教員の理解を深めることができた。多様な生徒に対して、学習への積極的な取り組みを促すことが課題である。 ・学習意欲が旺盛で、教員の支援を受けながら、根気強く学習活動を継続し、単位修得を果たした生徒が在籍している。このような生徒を増やし、組織的に学習支援を継続できる体制をつくることが課題である。	① 通信制のスクーリングの仕組みや、各学期の単位認定に必要な面接回数・レポート通数をきめ細かく生徒に伝えることで、修得単位を積み重ねるように指導を行う。 ② 生徒の参加を促すスクーリングのあり方(内容や時期など)について、協議を続けていく。また、生徒にとって取り組みやすいレポートを作成し、併せて、生徒の理解の定着を促す添削の工夫も行っていく。	
2 生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	① 外部の機関や人材と連携し、積極的に活用する。 ・マナーアップを推進し、コミュニケーション能力を育成する。 ② 生徒が主体的に活動する環境づくりを進め、自己肯定感を向上させる。	① SC、SSWの積極的活用を図るために、教育相談コーディネーターを中心とした組織を作り、職員全体の情報共有の仕方を工夫する。 ・挨拶や受け答えを促すために積極的に声をかける。 ② 学校行事に限らず、生徒が参加する機会を増やす。	① 組織作りを行い、情報を共有しながら組織的な活動が展開されたか。 ・生徒とのコミュニケーションを図ることができたか。 ② 生徒の自己肯定感を向上させられたか。	① 年2回、常勤職員だけでなく非常勤講師とも情報共有できるように、情報交換会を実施した。 ・月1回SC、SSW、養護教諭とともに担当職員が情報共有会を開いた。 ・三課程に隔てなく声かけを行った。 ② 新しく詩吟同好会とダンス同好会が発足し、文化祭や芸術祭で発表する生徒が増えた。	① 参加者が少なかった。全員参加が今後の目標とともに課題である。 ・情報共有会で組上にあがった生徒で緊急と判断され、拡大ケース会を開くなど生徒のために役立った。 ・挨拶を返してくれる生徒が少ないのが課題だが、根気よく続けていく。 ② 顧問の力と尽力に頼っている現状があり、職員に異動があると活動自体が消滅してしまうことが課題である。	① 多様な学習支援により、外部とのつながりをもたたくまできていく。より有効に活用してもらいたい。 ① 非常勤講師の会議参加時間の調整と、その後の状況を情報共有する機会の増加が課題である。 ・重要な会議だが、様々な課題を有する生徒が多数在籍しているため、すべてを組上に載せられない。まとめ方が課題である。 ・挨拶を返してくれる生徒が少ないのが課題である。 ② 定通の芸術祭で、詩吟同好会が特別賞、ダンス同好会が優秀賞を受賞した。一方、専門性を考えると指導者の継続が課題となる。	① 日程を行事予定表に組み込んだ。また、その後の状況を報告するようにした。 ・緊急性の高い者から優先的に対応する。 ② 生徒同士が主体的に活動できるように、支援や取組を検討する。	

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①キャリアサポート体制を拡充する。 ・「生きる力」を育む。	①進路相談支援員等を活用しながら、キャリアサポート体制を充実させる。 ・外部教育力を活用しながら、将来を見通して活動する意識を持たせる。	①相談した生徒数が増えたか。きめ細かい対応ができたか。 ・生徒の自立する意欲を高め、活動に繋げることができたか。	①就職活動に取り組む生徒が増加し、現時点で15名の生徒が内定している(昨年度は10名)。会社見学をした事業所数50社も超えた。 ・進学希望者数はかなり減少し、特に大学進学決定者(通信制大学は除く)は現時点で1名のみである。	①進路相談支援員(サポートティーチャー)の尽力で、就活が活発化した。その割に内定状況が芳しく無いのが課題である。通信制に対する理解不足から偏見が少なからずあるものと判断される。 ・通信制生徒の家庭の経済状況が非常に厳しく、進学志望者数や大学進学率の低下に如実に影響が出ていると思われる。	①通信制への理解不足を解消するため、具体的な方策が必要である。 ・進路相談支援が有効に機能している。より多くの生徒が活用できるよう手法を工夫してもらいたい。 ・通信制の生徒の大学への進学者数が減少傾向にある。経済的な理由以外に、原因の分析が必要ではないか。 ・奨学金等の情報が保護者に十分に伝わっていない。わかり辛いところを相談できる機会が欲しい。	①就職活動が活性化したことは成果としてあげられるが、思うような内定状況には至らなかったことが課題である。 ・進学に関しては、卒業生が国立大学への一般入試での合格を果たした。このように希望大の学合格を目指して努力する生徒に対し、通信制の学びのシステムを有効に活用し、安心して進学準備に専念できる支援を展開することが課題となる。	①通信制への理解不足が就職活動の障害にならないよう、県、ハローワークと連携しながら根気強く通信制の生徒を理解してもらうため、説明を継続していく。 ・経済的事情から進学を断念する生徒が極めて多い。進学率の低下の要因と考えられる。学費や奨学金に関する情報を保護者にも渡し、保護者も含めて支援する体制づくりが必要である。
4	地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域の学校等と連携するなど、地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・日々の教育活動について、より丁寧な情報発信を行う。 ・地域の防災活動について協働を図る。	①近隣の小中学校や養護学校他、様々な行事の手伝い等の地域貢献活動を通して地域との交流の場を増やす。 ・学校説明会やホームページ等を通して、通信制の学びのシステムを広く発信し、理解を図る。 ・通信制として、地域との防災活動とのかかわりを整理する。	①通信制生徒と地域との交流の場や地域貢献活動を増やせたか。 ・通信制の学びのシステムを十分に発信し、広く理解を得ることができたか。 ・地域に通信制の特徴を理解してもらえたか。	①火曜日のコムタイムにおいて生徒、教員が近隣の通学路を清掃した。 ・本年度より各行事の写真をホームページにアップし、6月からはカウンターも設置したところ2月時点で1万8000人以上の閲覧者をカウントした。 ・厚木市や近隣自治体と連携し、「避難所」についての協議を始めた。	①あまり登校しない通信制の特徴から、地域行事への参加ができなかった。 ・広報して通信制へ入学する生徒を増やすことが目的ではなく、通信制の学びのシステムを広く理解してもらうことが重要である。 ・既存の厚木市主導の「避難所」に新たに県立高校の「避難所」を追加・整備するための話し合いが今後重要になる。	①通信制への理解がまだ進んでいない。もっと地域との交流が必要である。この厚木市に愛着がわくように、生徒にはたらきかけてもらいたい。 ・地域住民にとっては、ホームページよりも回覧板を利用して学校からの連絡やPRをしてもらった方が効果があるのではないかと。 ・5年間減少し続けた通信制の入学者が昨年より増加に転じたが、入学してきた生徒の一部には、通信制への理解が不十分な生徒もいる。 ・「避難所」として、近隣との連携をスタートすることができたが、まだ自治体の今後の活動を待っている状態である。	①近隣の小中学校との交流について、より多くの生徒に参加を呼び掛ける活動が必要である。 ・転編入生の増加を考えると中学校の先生方への周知のみならず、高校の先生への周知も視野に入れたPR活動が必要である。 ・市や地区自治会等との連携を強化して、避難所としてのマニュアル作りに取り組む。	
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等を作成し、内容の周知を図る。 ・三課程で実施する防災訓練を定着させる。 ②ICT機器の利活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①学校安全・安心管理計画を作成し、それを職員に周知させる。 ・生徒・職員の防災意識を高め、避難の経路や方法等を事前に周知させる。 ②校内ポータルサイトを活用して施設・設備・授業等について三課程の情報共有をさらに進める。	①学校運営マニュアルが職員に周知されたか。 ・生徒・職員の防災意識が高まったか。また避難の経路・方法等が周知されたか。 ②校内ポータルサイトの利用状況が増え、三課程の情報共有がより一層進んだか。	①6月に通信独自の防災訓練、11月には三課程合同の防災訓練をおこない。避難経路・方法の周知を行うことができた。 ②校内ポータルサイトを毎日確認することが日課となり、三課程の情報共有がより一層すすんだ。	①Jアラートに対応した防災訓練はまだ行っていない。 ②校内ポータルサイトの活用は進んでいるが、課程間の時間帯、教室等の重なりなどきめ細かな情報共有が必要である。	①厚木市の防災の管轄において、厚木清南高校はどこに所属するのか明確化されていない。市と連携しながら、避難所としての役割を担ってほしい。 ②校内ポータルサイトの共有はすすんだ。今後はより有効に教室や施設の共有ができるように研究を継続していく。	①地震などの設定のみならず、Jアラートへの対応など、より実践に役立つ防災訓練の模索が必要である。また、より役立つように防災マニュアルのさらなる改良も必要である。 ②各課程の動きがより把握しやすくなるようにポータルサイトの改良が必要である。	